

①2017年2月1日通達世界的試験実施ルール

(南半球では2017年1月1日、北半球では7月1日より施行)

第3条 プレーヤーの人数 - チーム (ミニ適応なし)

3.6 (アンコンテストスクラム)

以下の条文を追加：

(h) 退場、一時的退出、または、負傷によるアンコンテストスクラムは、両チーム8名ずつで行われなければならない。根拠：チームがアンコンテストスクラムを利用しないようにするため。

第5条 時間 (ミニ適応なし)

5.7(e) に以下の条文を追加：

時間が経過した後、ペナルティキックを直接蹴り出した場合、レフリーはボールの投入(スローイン)を認め、次にボールがデッドになるまでプレーは続行する。根拠：チームが試合終了間際に反則をしないようにするため

第8条 アドバンテージ (ミニ適応)

8.1(a) に以下の条文を追加：

同じチームによる複数の反則が生じた場合、レフリーは、反則をしなかった側のキャプテンに最も有利なペナルティの地点を選ばせることができる。根拠：すでにアドバンテージが適用されている状況で違反が繰り返されないようにし、反則を繰り返した側ではないチームに報いるため。
どのタイミングまで可能?クイックスタートを認めない場合は?

第9条 得点方法 (ミニ適応)

9.A.1 (得点の種類)

ペナルティトライ：相手側の不正なプレーがなかったならば、ほぼ間違いなくトライが得られたものと認められた場合は、ペナルティトライが与えられる。コンバージョンは行わない。得点：7点根拠：チームが競技規則に反してトライを妨ぐことがないようにし、かつ、コンバージョンをなくして時計の時間を節約するため。ミニにも適応しコンバージョンはなしで7点?

第19条 タッチおよびラインアウト (ミニ適応)

117 ページの定義に、以下を追加：

●ボールを支配しようとしているプレーヤーは、ボールを保持しているとみなされる。根拠：これは、実際にはすでに適用されていることを競技規則で条文化したものである。ボールを「ファ

ンプルしている」時、または、している状態は、ボールを保持していることになり、再びキャッチすると同時にタッチに出ればタッチであるとみなされる、ということの意味する。この条文追加により、マッチオフィシャルが判断をしやすくなる。

117 ページの 8 つ目の定義を変更:

●プレーヤーが競技区域から跳び上がり、タッチ、または、タッチインゴールに着地する前に、ボールを競技区域へ跳ね返した(または、そのプレーヤーがボールを捕り競技区域へ投げ戻した)場合は、ボールがタッチ上の立平面に到達してもしなくても、プレーは続行する。**根拠: 競技規則を簡略化し、ボールがプレーされている時間を増やすため。ノックしたボールがタッチに出たらそのプレーヤーが出したことになり相手ボールにてラインアウト。ノックしたボールがフィールド内に戻っても、前にノックしてしまった場合はそのプレーヤーのノックとなり相手ボールのスクラムとなる。**

117 ページの定義に、以下を追加:

●ボールキャリアがタッチ上の立方面に到達したが先にタッチに出ることなく競技区域にボールを戻した場合、プレーは続行する。**根拠: 競技規則を簡略化し、ボールがプレーされている時間を増やすため。**

117 ページの 6 つ目の定義に以下を追加:

●このとき、ボールがキャッチされたときにタッチ上の立方面を通り過ぎている場合、ボールをキャッチしたプレーヤーはボールをタッチに出したとはみなされない。ボールがキャッチされた、または、拾い上げられたときにタッチ上の立方面を通り過ぎていない場合、ボールが動いていても止まっても、ボールをキャッチしたプレーヤーはボールをタッチに出したとみなされる。**根拠: 競技規則を簡略化し、ボールがプレーされている時間を増やすため。**

第 3 条の改正については 15 人制のみについてだが、その他の試験実施ルールはすべて 15 人制と 7 人制に平等に適用される。

②2017 年 7 月 22 日通達世界的試験実施ルール

今回承認された試験実施ルールの施行日は、以下の通りである:

- 北半球: 2017 年 8 月 1 日
- 南半球: 2018 年 1 月 1 日

この試験的ルールは、直近に開幕を控えている女子ラグビーワールドカップ 2017 には適用されない。しかし、北半球ウィンドウの試合は、この試験実施ルールのもとで行われることとなる。この試験的ルールの実施は、競技のプレー、および、レフリングをするにあたりよりシンプルにすること、また、プレー

ヤーウェルフェアをさらに推進することを目的としている。試験的ルールの実施に関する解説資料も準備されており、以下のリンクからダウンロードすることが可能である(資料は英文)：

http://laws.worldrugby.org/index.php?domain=20&language=EN&utm_source=World+Rugby+Press+List&utm_medium=email&utm_campaign=170719+DR+Global+law+trials

1. 競技規則 5 スクラムへのボールの投入、および、20.6 (d) スクラムハーフによるボール投入(ミニ適応なし)レフリーからの合図は無い。スクラムハーフは、まっすぐにボールを投入しなければならないが、スクラム中央の線に、自分の肩を合わせてよい、すなわち、スクラムハーフは、スクラム中央の線から自分の肩の分、自陣よりに立つことが許される。
2. 競技規則 9(b) スクラムにおける、その他の制限(ミニ適応なし)ナンバーエイトは、セカンドローの足の下にあるボールを拾ってよい。
3. 競技規則第 20 条 スローイン後に足でボールに触れること(ミニ適応なし)ボールがトンネル内の地面に触れた後は、双方のフロントローはボールを獲得するために、いずれの足も使ってもよい。ボールを投入するチームの一人は、ボールを取りに足を搔かなければならない。罰則: フリーキック
4. 競技規則の修正 4(c)(ミニ適応)タックラーは、ボールをプレーする前に、一度立ち上がらなければならない、また、タックルゲートの自陣側からプレーしなければならない。
5. 競技規則のブレイクダウン修正 第 16 条「ラック」(ミニ適応)ラックは、少なくとも一人のプレーヤーが、両足で地面にある(または、タックルされたプレーヤーの上、タックラーの上にある)ボールをまたがって立つことで開始される。この時点で、オフサイドラインが形成される。両足で立ったプレーヤーは、すぐに行う限り、ボールを拾うことが許される。敵のプレーヤーが到着した瞬間、手の使用はできなくなる。追加コメント:ディフェンスのオフサイドラインは跨いだプレーヤーの頭の位置
6. 競技規則 4 その他の反則(ミニ適応)プレーヤーはラックの中のボールを蹴り出してはならない。プレーヤーはボールを自陣に向けて後ろ向きにかくことのみ許される。

施行日: ●2017 年 8 月 1 日～ 北半球

●2018 年 1 月 1 日～ 南半球